

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) >
大阪 渡船場マップ

大阪 渡船場マップ

ページ番号：11242 2021年8月16日

渡船場マップ

- [渡船場](#)
- [渡し場の跡](#)
- [運航時刻表](#)
- [安全方針](#)



(画像をクリックすると現在の渡船場マップのページへ移動します)

大阪の渡船

現在大阪市内には、市の運営する8か所の渡船場があり、15隻の船が地域の多くの人々に利用されています。古来数多くの川が流れ、水の都と呼ばれた大阪には、人々の往來のための渡船場が各所にありました。当初民間によって営まれていた渡船は、明治24年に大阪府が「渡船営業規則」を定め「監督取締り」を行うようになり、明治40年には安治川、尻無川及び淀川筋の29渡船場については市営事業として市が管理することになりました。

大正9年4月、旧道路法の施行により渡船は無料となり、昭和7年4月以降はそれまでの請負制を改め、ほとんどが市の直営方式になりました。そして昭和10年頃には渡船場31か所、保有船舶数69隻（機械船32隻、手漕ぎ船37隻）、年間利用者は歩行者が約5752万人、自転車等が約1442万台を数えました。

しかし、その後橋梁の架設など道路施設の整備に伴って次第に廃止され、特に昭和20年には戦災によってその多くを失いました。昭和23年に15か所で再開されましたが、戦災復興とともに道路をはじめとする都市施設が整備され、モータリゼーションの進展もあって、渡船の利用は次第に減少し、昭和53年には渡船場12か所、利用者数約250万人に、令和2年では8か所約150万人になっています。

このガイドマップは、大阪の渡船場を多くの方々にご存知いただくことを目的に制作したものです。現在運航している渡船に乗ってみるのもよし、かつて渡船場があった場所を訪れて昔の大阪を偲んでみるのもよし、いちどガイドマップを持って出かけてみられてはいかがでしょうか。大阪市の渡船は全て無料です。



通勤客などで賑わう渡船場


バナー広告

広告の内容等、掲載された広告に関する一切の責任は広告主に帰属します。また、市が推奨等をするものではありません。

なお、大阪市では広告掲載について一定の基準を設けています。詳細は下記をご覧ください。

- [大阪市広告掲載要綱](#)
- [建設局ホームページバナー広告掲載要領](#)
- [建設局ホームページバナー広告表現ガイドライン](#)

バナー広告募集中

 SNSリンクは別ウィンドウで開きます



このページの作成者・問合せ先

大阪市 建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所

住所：〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33-27

電話：06-6536-5295

ファックス：06-6536-5305

[メール送信フォーム](#)

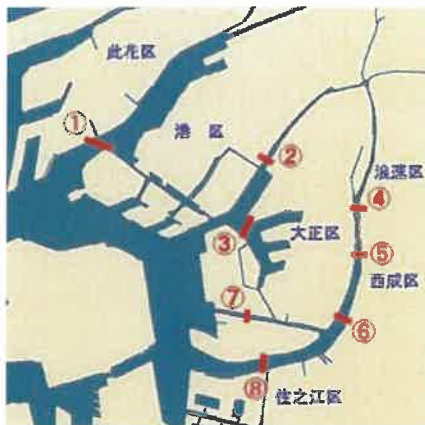
Copyright (C) City of Osaka All rights reserved.

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > 渡船場

渡船場

ページ番号：11244 2019年5月15日

[TOP PAGE](#)



- [1. 天保山\(てんぼうざん\) 渡船場](#)
- [2. 甚兵衛\(じんべえ\) 渡船場](#)
- [3. 千歳\(ちとせ\) 渡船場](#)
- [4. 落合上\(おちあいかみ\) 渡船場](#)
- [5. 落合下\(おちあいしも\) 渡船場](#)
- [6. 千本松\(せんぼんまつ\) 渡船場](#)
- [7. 船町\(ふなまち\) 渡船場](#)
- [8. 木津川\(きづがわ\) 渡船場](#)

このページの作成者・問合せ先

大阪市 建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所

住所：〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33-27

電話：06-6536-5295

ファックス：06-6536-5305

[メール送信フォーム](#)

Copyright (C) City of Osaka All rights reserved.

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > [渡船場](#) > 1.天保山（てんぼうざん）渡船場

1.天保山（てんぼうざん）渡船場

ページ番号：11249 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)[TOP PAGE](#)

天保山（港区築港3丁目）と此花区桜島3丁目を結ぶ（岸壁間400メートル）位置に天保山渡船場がある。明治38年に開設されたこの渡しは、大阪港の繁栄を企図した大阪市が港湾振興策の一環として始めたもので、昭和15年までは市の港湾部が所管していた。当初は天保山、桜島、築港大栈橋の間を三角運航していたが、大阪港の繁栄につれて利用者が増え、築港栈橋を基点に木津川、尻無川方面にも運航区域を広げ、大正11年に天保山栈橋が完成して内航客船が発着するようになってからは、天保山～桜島間を終夜運航した時代もあったが、昭和元年には現在のルートになった。昭和初期には桜島付近の重工業化が進んで通勤用としても利用された。昭和12年12月1日午後9時ごろ、渡船が突風にあおられて転覆、軍需工場帰りの乗客53人の犠牲者を出す事故があった。昭和15年に経営は土木部（現建設局）に移され、現在にいたっている。昭和42年には1日平均1,700人の利用者があったが、令和2年度現在、1日平均約603人が利用している。



「浪花百景」より「天保山」

渡し場所在地（築港側発）

・築港側 大阪市港区築港3丁目2-25

Osaka Metro（大阪メトロ）中央線「大阪港駅」下車、北へ徒歩約10分

・桜島側 大阪市此花区桜島3丁目10-34

JRゆめ咲線「桜島駅」下車、南西へ徒歩約10分

[時刻表はコチラ](#)



天保山について

江戸時代、安治川の開削によって上流の流砂が堆積し諸国廻船の航行に支障が生ずるようになったので、幕府により、天保2年から2年の歳月と延べ10万1200余人を動員して「御救大浚」と呼ばれる大工事が行われた。このときの捨土を盛り上げたものが出船、入船の目標となった。そこでこれを幕府は「目標（めじるし）山」と命名、やがて人々は、天保山と呼ぶようになった。「撰津名所図会大成」（寛政5年（1793）～万延元年（1860））に「安治川口の下海辺にあり廻船目印山と号す 天保二年御仁恵によって成就の地なればとて世俗天保山と号す 山の高さ凡十間許周廻百間余嶋の周廻千間余石垣の高さ五間余 橋十二箇所茶店貨食屋（りょうりや）等あまたありて春秋とも賑わし 又高燈炉を建てて夜走（よばしり）の舟の目あてとす その結構厳なり」とある。

このページの作成者・問合せ先

大阪市 建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所

住所：〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33-27

電話：06-6536-5295

ファックス：06-6536-5305

[メール送信フォーム](#)

Copyright (C) City of Osaka All rights reserved.

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > [渡船場](#) > 2.甚兵衛（じんべえ）渡船場

2.甚兵衛（じんべえ）渡船場

ページ番号：11251 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)[TOP PAGE](#)

昔、尻無川の堤は紅葉の名所であった。「摂津名所図会大成」に『大河の支流にして江之子じまの北より西南に流れて、寺島の西を入る後世この河の両堤に黄櫨の木を数千株うえ列ねて実をとりて蠟に製するの益とす されば紅葉の時節にいたりては河の兩岸一圓の紅にして川の面に映じて風景斜ならず 騒人墨客うちむれて風流をたのしみ酒宴に興じて常にあらざる賑ひなり 河下に甚兵衛の小屋とて茶店あり年久しき茅屋にして世に名高し』とあり、甚兵衛によって設けられた渡しにある茶店は「蛤小屋」と呼ばれて名物の蜆、蛤を賞味する人が絶えなかったという。



現在も甚兵衛渡船場は健在で、大正区泉尾7丁目と港区福崎1丁目を結び（岸壁間94メートル）、朝のラッシュ時は2隻の船が運航している。令和2年度現在、1日平均約1,022人が利用している。

渡し場所在地（泉尾側発）

・泉尾側 大阪市大正区泉尾7丁目13-32

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス87系統（鶴町四丁目行き）、98系統（大正区役所前行き）「泉尾四丁目」下車、西へ徒歩約5分

・福崎側 大阪市港区福崎1丁目3-50

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「弁天町駅」から大阪シティバス51系統（天保山行き）「福崎一丁目」下車、南東へ徒歩約5分（「夕風」からは約12分）

[時刻表はコチラ](#)

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > [渡船場](#) > 3.千歳（ちとせ）渡船場

3.千歳（ちとせ）渡船場

ページ番号：11253 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)[TOP PAGE](#)

この渡しは大阪港復興事業の一つとして大正区の内港化工事を行った際、既設の千歳橋が撤去され、その代わりに施設として設けられた。昭和30年7月にそれまでの民営から港湾局の所管とし（同32年6月直営化）、同39年建設局に移管された。大正区鶴町4丁目と同区北恩加島2丁目（岸壁間371メートル）間を運航している令和2年度現在、1日平均約489人が利用している。



渡し場所在地（北恩加島側発）

・北恩加島側 大阪市大正区北恩加島2丁目5-25

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス87系統（鶴町四丁目行き）、98系統（大正区役所前行き）「新千歳」下車、南西へ徒歩約10分

・鶴町側 大阪市大正区鶴町4丁目1-69

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス（鶴町四丁目行き）「鶴町四丁目」下車、北東へ徒歩約5分

[時刻表はコチラ](#)

このページの作成者・問合せ先

大阪市 建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所

住所：〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33-27

電話：06-6536-5295

ファックス：06-6536-5305

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) >
大阪 渡船場マップ > [渡船場](#) > 4.落合上（おちあいかみ）渡船場

4.落合上（おちあいかみ）渡船場

ページ番号：11254 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)[TOP PAGE](#)

落合上渡船場は、大正区千島1丁目と西成区北津守4丁目を結ぶ（岸壁間100メートル）。令和2年度現在、1日平均439人が利用している。上流にある木津川水門（防潮）が毎月1回程度開閉試運転のため閉まっているのが見られる。



渡し場所在地（千島側発）

・千島側 大阪市大正区千島1丁目29-41

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス94系統（鶴町四丁目行き）「千島公園前」下車、東へ徒歩約5分、

または、大阪シティバス（鶴町四丁目行き）「大正区役所前」下車、東へ徒歩約13分

・北津守側 大阪市西成区北津守4丁目15-1

南海汐見橋線「津守駅」下車、北西へ徒歩約9分

[時刻表はこちら](#)

このページの作成者・問合せ先

大阪市 建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所

住所：〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33-27

電話：06-6536-5295

ファックス：06-6536-5305

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > [渡船場](#) > 5.落合下（おちあいしも）渡船場

5.落合下（おちあいしも）渡船場

ページ番号：11256 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)[TOP PAGE](#)

落合下渡船場は、大正区平尾1丁目と西成区津守2丁目を結ぶ（岸壁間138メートル）。令和2年度現在、1日平均355人が利用している。毎年10月下旬から翌年4月下旬にかけて、数百羽のユリカモメが飛来する。



渡し場所在地（平尾側発）

・平尾側 大阪市大正区平尾1丁目1-26

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス94系統（鶴町四丁目行き）「小林公園前」下車、東へ徒歩約3分、

または、大阪シティバス（鶴町四丁目行き）「中央中学校前」下車、東へ徒歩約12分

・津守側 大阪市西成区津守2丁目8-21

Osaka Metro（大阪メトロ）「なんば駅」から大阪シティバス29系統（住之江公園行き）「津守神社前」下車、北西へ徒歩約8分

[時刻表はコチラ](#)

このページの作成者・問合せ先

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > [渡船場](#) > 6.千本松（せんぼんまつ）渡船場

6.千本松（せんぼんまつ）渡船場

ページ番号：11258 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)

[TOP PAGE](#)

大正区南恩加島1丁目と西成区南津守2丁目を結ぶ（岸壁間230メートル）。このあたりは木津川の川尻に近く、江戸時代には諸国廻船の出入りの激しいところであった。幕府は、舟運の安全のため水深を確保し、また防波堤のとしても役立つよう、天保3年（1832）ここに大規模な石の堤を築いた。千本松の名は、この堤防の上に植えられた松並木に由来する。「摂津名所図会大成」に「右塘（つつみ）に数株の松を植列ぬるゆえに俗に木津川の千本松といふ洋々たる蒼海に築出せし松原の風景は彼の名に高き天橋立三保の松原などもほかならず覚ゆ・・・」と述べている。

千本松の渡しが設けられた年代ははっきりしないが、大正時代の中頃に初めて設けられたものと思われる。昭和48年に千本松大橋が完成し、それとともに渡しは廃止されることになっていたが、地元住民の強い要望によって存続することになり、現在も通勤通学の貴重な足として利用されている。令和2年度現在、1日平均約885人が利用している。



渡し場所在地（南恩加島側発）

・南恩加島側 大阪市大正区南恩加島1丁目11-1

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス（鶴町四丁目行き）「大運橋通」下車、東へ徒歩約9分、

または、大阪シティバス76系統（住之江公園行き）「千本松橋西詰」下車、東へ徒歩約2分、

または、大阪シティバス94系統（鶴町四丁目行き）「南恩加島東」下車、南東へ徒歩約2分

・南津守側 大阪市西成区南津守2丁目4-88

Osaka Metro（大阪メトロ）「なんば駅」から大阪シティバス29系統（住之江公園行き）「南津守」下車、西へ徒歩約8分、

または、Osaka Metro（大阪メトロ）「住之江公園駅」から大阪シティバス76系統（ドーム前千代崎行き）「南津守二丁目」下車、西へ徒歩約5分

[時刻表はコチラ](#)



このページの作成者・問合せ先

大阪市 建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所

住所：〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33-27

電話：06-6536-5295

ファックス：06-6536-5305

[メール送信フォーム](#)

Copyright (C) City of Osaka All rights reserved.

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > [渡船場](#) > 7.船町（ふなまち）渡船場

7.船町（ふなまち）渡船場

ページ番号：11260 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)

[TOP PAGE](#)

船町渡船場は、大正区鶴町1丁目と同区船町1丁目を結ぶ（岸壁間75メートル）。令和2年度現在、1日平均約163人が利用している。昭和20年代後半から30年代にかけて、川幅が狭いことを利用して対岸まで船を運ね、その上に板を敷いて人や自転車が通行していた。



渡し場所在地（鶴町側発）

・鶴町側 大阪市大正区鶴町1丁目16-61

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス（鶴町四丁目行き）「鶴町一丁目」下車、南へ徒歩約4分

・船町側 大阪市大正区船町1丁目3-117

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス70系統（西船町行き）「西船町」下車、北へ徒歩約4分

[時刻表はコチラ](#)



このページの作成者・問合せ先

大阪市 建設局西部方面管理事務所河川・渡船管理事務所

住所：〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33-27

電話：06-6536-5295

[トップページ](#) > [市政](#) > [方針・条例](#) > [主要な計画、指針・施策](#) > [事業別計画、指針・施策](#) > [川・橋](#) > [渡船場](#) > [大阪 渡船場マップ](#) > [渡船場](#) > 8.木津川（きづがわ）渡船場

8.木津川（きづがわ）渡船場

ページ番号：11261 2021年8月16日

[現在運航中の渡船場](#)[TOP PAGE](#)

大正区船町1丁目と住之江区平林北1丁目を結ぶ（岸壁間238メートル）唯一の大阪港湾局管理の渡船である。昭和30年12月からカーフェリー（「松丸」134トン）が運航していた。乗用車から大型トラックまで運搬し得る能力を持っていたが、上流部に千本松大橋が開通した昭和48年の翌年からカーフェリーは廃止され、人と自転車のみを運ぶ渡船となった。利用者は大正区の工場に通う人や住之江区の木材関係で働く人がほとんどである。水がきれいになったためか、渡り鳥が飛来する姿が見られる。令和2年度現在、1日平均約177人が利用している。



渡し場所在地（船町側発）

・船町側 大阪市大正区船町1丁目1-4

JR・Osaka Metro（大阪メトロ）「大正駅」から大阪シティバス70系統（西船町行き）「中船町」下車、南へ徒歩約4分

・平林北側 大阪市住之江区平林北1丁目1

Osaka Metro（大阪メトロ）「住之江公園駅」から大阪シティバス15・15A系統（南港南六丁目行き）「柴谷橋西詰」下車、北へ徒歩約12分

[時刻表はコチラ](#)

このページの作成者・問合せ先